

199  
439

板新  
目  
新



村奥 丁塩通

199-439  
\*1200701774427\*





大正

口雲  
上



世法回音

一乘禪園

御統 ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

あつてん ちきり ちきり ちきり

新刊贈本

昭和五  
二七  
圖書



石炭



大正十年ののんの府  
大正のさだりしこ  
川とあり國の民  
るる年の始は味り千  
ざいりく  
万さいらり

どか面てすいけ  
さたりと伴はる  
く申おつけ  
らんらのめあん  
たこももあ  
へりきこき今まんののそりあり

あつて  
えんき  
あは  
さいん  
えんき  
おまはる  
くで  
ん

あは  
おの  
らり

やぶり福



びり  
正十年  
ま  
うま  
るあり  
正十年  
らんら二  
おき  
あき  
寺  
と  
あ  
地  
し  
申  
あ  
佛  
百

あつて  
えんき  
あは  
さいん  
えんき  
おまはる  
くで  
ん  
あは  
おの  
らり  
あつて  
えんき  
あは  
さいん  
えんき  
おまはる  
くで  
ん







きんぎょのあやう

正保けのあんののほろあやう  
ひげの久々をききあはれ  
そと後三束のいさし  
こまきとせいをいさし  
あまのたのうあんき



きんぎょのきんぎょ  
くこゆりのすきききんぎょ  
らもごあんそごう

あんせ

あひ  
おちよ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

油

いさじ

あひ  
あひ



あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ



徳牙がの

かーかろの長たより者  
 かよやけんのありはれり  
 うとつんせのらにふ  
 んふるーあろくばさやゆき  
 おや利乗こまごんぐ  
 かよとこかりまのさち  
 むつかりせりしつてあ  
 かよとわーさいあ  
 いのあのみこよま  
 にらあちまき  
 かよととてこせり

だんあ  
 浦のこ  
 浦の  
 まま

今戸  
 り  
 や



傘 かし

天正の比さるのあきんど  
 ちの曲なるといふおま

きうへらりあ  
 三年なてりか  
 らのつが又傘  
 らうそくいき  
 ちのけちの二  
 ひてり

はまのり  
 日な  
 ら

こまに

ゆた  
 こま  
 こま

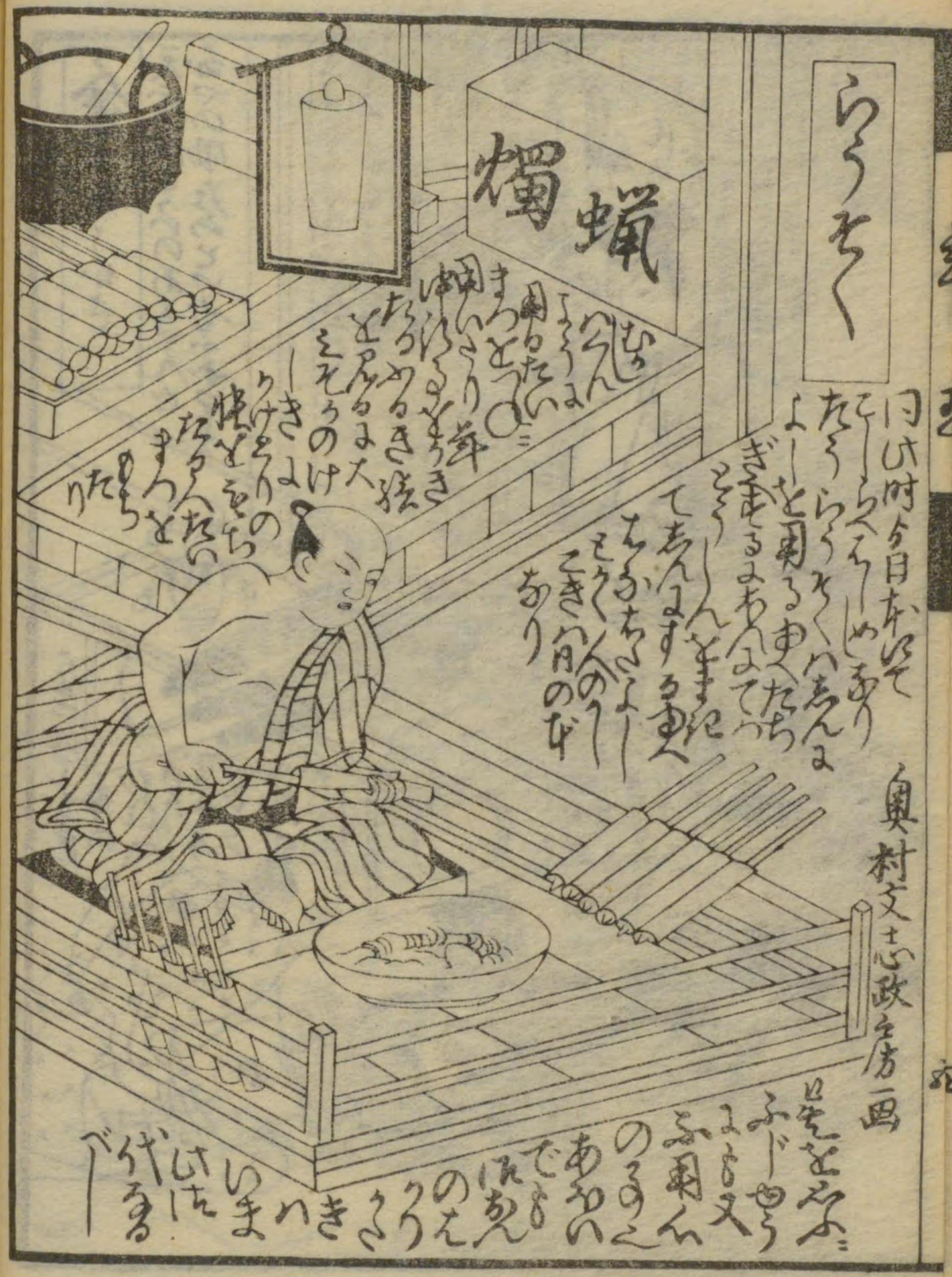
の  
 の  
 の  
 の





ろうそく

燭 蠟



日頃時分日本にて  
たろうろうとあり  
よーと申す申したち  
ぎまゝはあゝとて  
てあゝと申す  
あゝと申す  
あゝと申す  
あゝと申す

奥村文志政房画

是と申す  
ふど申す  
ふも申す  
のり申す  
あゝ申す  
はあ申す  
のり申す  
あゝ申す  
はあ申す  
のり申す

奥村文志政房

奥村文志政房画

後醍醐天皇の院文正二年  
けんみん寺のあゝと  
おしきせん法とひら  
建仁二年にらら  
けんえちとたつ  
むみもふおたき  
あるふとあゝとせ  
人ふよけらて秋若  
とありあゝとせ  
とありあゝとせ  
とありあゝとせ  
とありあゝとせ  
とありあゝとせ  
とありあゝとせ



あゝと申す

けんみんち  
のちと  
あゝと  
あゝと  
あゝと  
あゝと  
あゝと  
あゝと  
あゝと  
あゝと











髪を剃るやみあひ

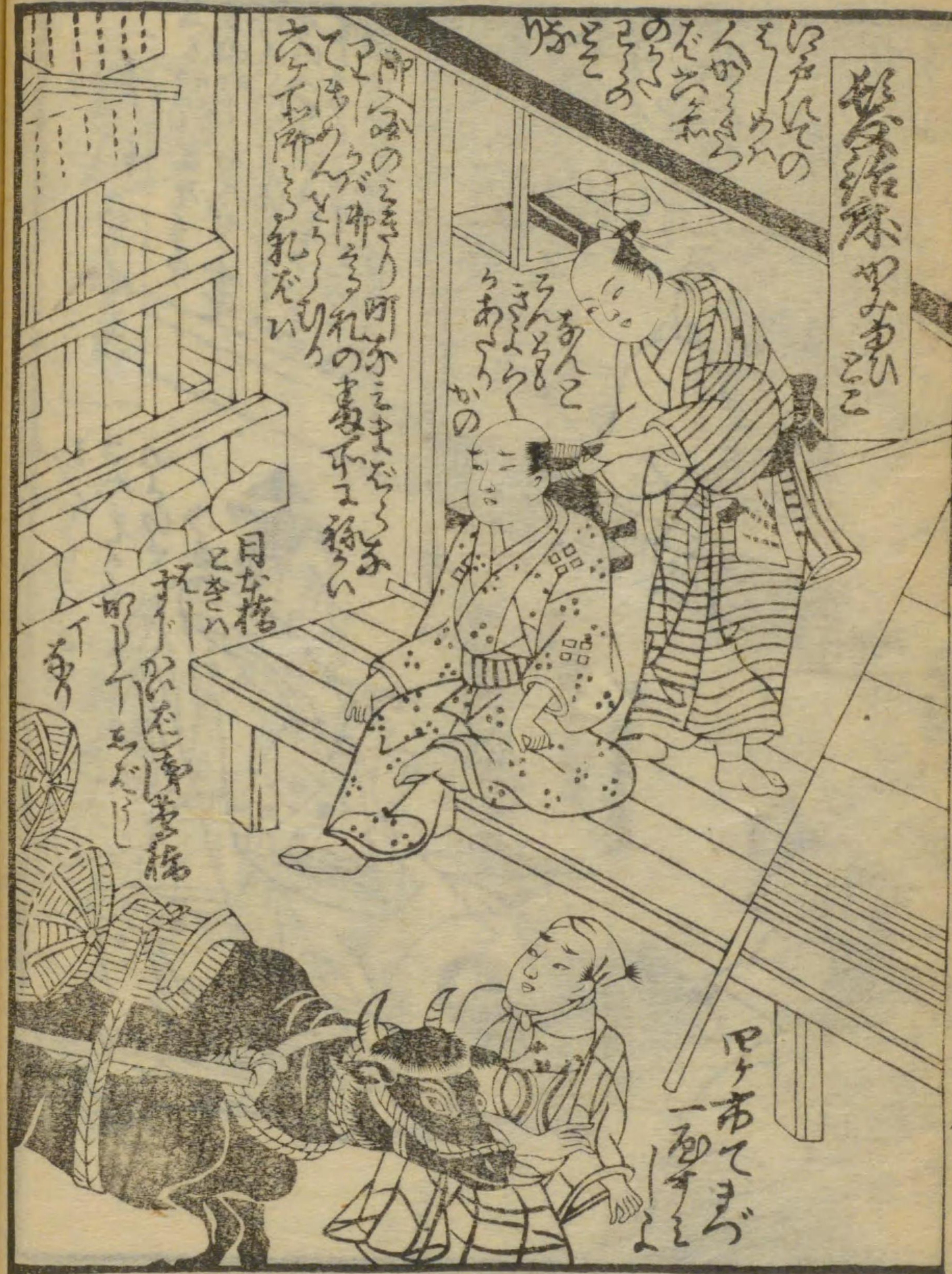
いふ所の  
人の髪を  
をさそ  
のさ  
さそ



髪を剃るのときり可なり  
髪を剃るのときり可なり  
髪を剃るのときり可なり  
髪を剃るのときり可なり

日本橋  
ときり  
髪を剃る  
髪を剃る

髪を剃る  
髪を剃る



池原金御所

寛永の池原のときり可なり  
寛永の池原のときり可なり  
寛永の池原のときり可なり  
寛永の池原のときり可なり

池原のときり可なり  
池原のときり可なり  
池原のときり可なり  
池原のときり可なり

池原のときり可なり  
池原のときり可なり  
池原のときり可なり  
池原のときり可なり





床の舞がま



寛政の頃は  
志願するにや  
ひまのほかに  
のみろとせり  
やういこまを  
たのうまの  
つものたれ  
りうこまの  
おらりこ  
ま

ひひひひわろ

かしま  
うらで  
あんあ  
よ

あゝあゝ

いさめ  
えん  
あ

それ

被服をでたれと

延喜と天和の  
大なり神と

小衣にまたれた  
少きく大尺神  
ととらな

近代の尺と

八尺神の時

あかきく

又かし天和

えんろののれ

は時よこを



袖

清白の袋

杖

月

か

か

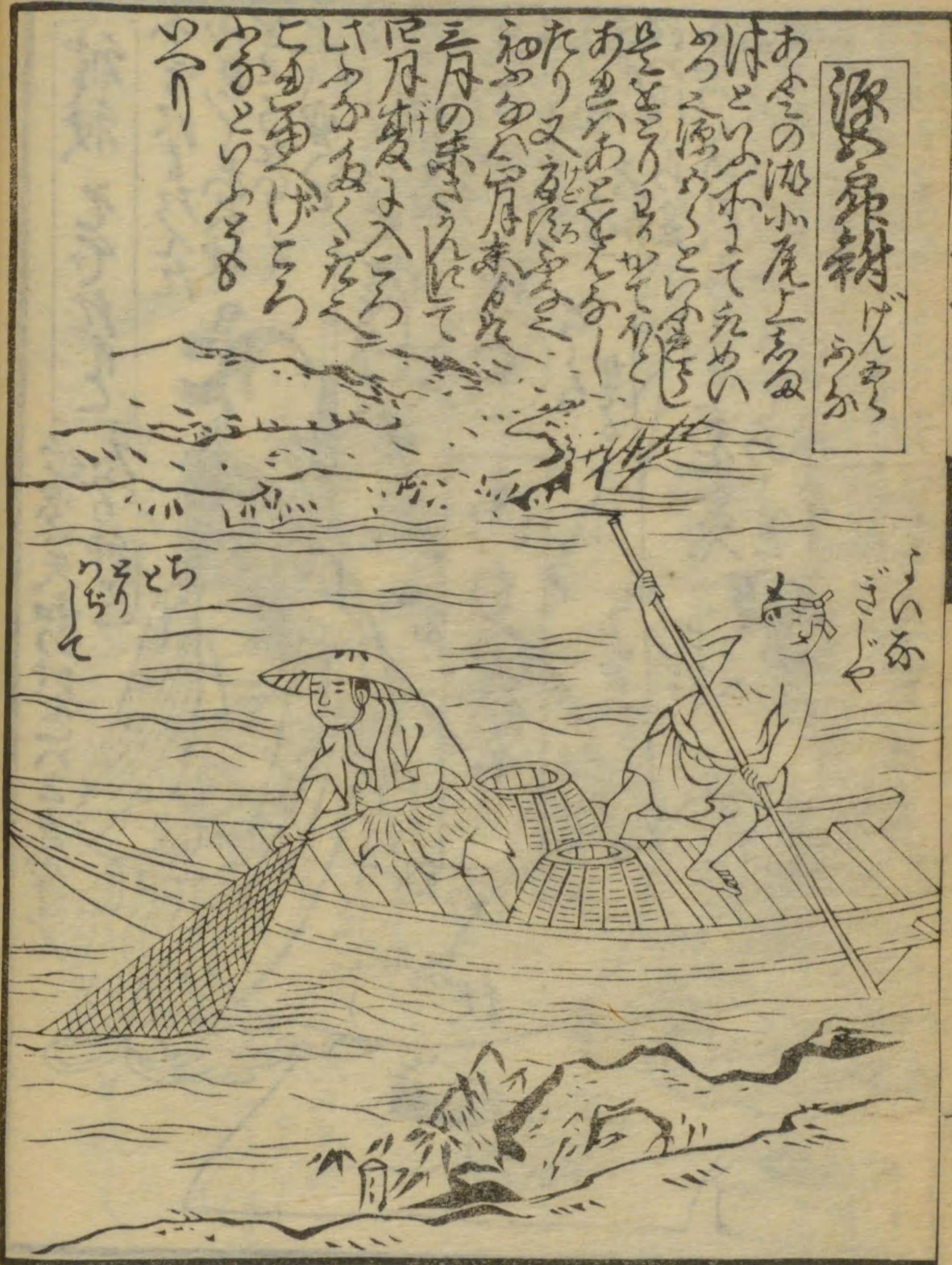
い





源の舟船 げんぶね

あまの湖小尾上なる  
 けといふ不うそえぬ  
 ろろの徳わくといふ徳  
 是とそり日やや  
 あまのあこととを  
 たり又た  
 初あまの月未  
 二月の末さ  
 二月の末さ  
 けあまのく  
 こまのげ  
 家といふ  
 たり



女の主人あひ

あまの湖小尾上なる  
 けといふ不うそえぬ  
 ろろの徳わくといふ徳  
 是とそり日やや  
 あまのあこととを  
 たり又た  
 初あまの月未  
 二月の末さ  
 二月の末さ  
 けあまのく  
 こまのげ  
 家といふ  
 たり

















香の物

たきものゆへに何よそまよと  
うすくぬきこころの  
たまはまはしてつけばいーののりまよとらひ  
こまよたしこまよとらひとらひこまよとらひ  
あすひ大らんよとぬらぬらつけてその  
あつこととらひとらひとらひとらひ  
なるあり合せうとらひとらひとらひ  
かろりよとらひとらひとらひ

とらひとらひとらひとらひとらひとらひ  
あまよとらひとらひとらひとらひとらひ  
とらひとらひとらひとらひとらひとらひ



あまよとらひ  
ひらひらひらひら  
かろりのとらひ  
あまよとらひ

洋流清たぐあん

細きもの

たぐあんつけいふ川東清  
のゆいそたぐあんをせう  
のつけえとらひとらひとらひ

あんどものんあつとらひ  
まよとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ

あつとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ  
あつとらひとらひとらひ





印行五百部之内  
第十一號

會製複書稀

品賣非

發行所

米山堂

編輯兼發行者 山田清作  
彫刻者 大塚祐次  
印刷者 阿部鍋五郎  
東京市牛込區富久町八十四番地

電話四三三四六一番  
振替東京三三三〇九番

昭和五年一月廿五日印刷  
昭和五年一月廿八日發行

第六期  
第十五回

鉄餅切きもち

素餅刀名

正月の餅と切きもちの儀を  
くちのちのちとていへり  
具はまよそをへたる  
切きもちの儀は  
こころすすむくちのち  
ひらひらひらひらひらひら  
へまのちのちとすまてか  
おちのちのちのちのち

んせをちのちのちのち  
まのちのちのちのち  
んせのちのちのちのち  
國をちのちのちのち  
んせをちのちのちのち  
月をちのちのちのち

奥村文志政房画

